

ritsuko matsushita

神奈川県横浜市生まれ。

2013年より本格的に写真を学び始め、写真家として活動中。子供の頃に読んだ絵本や児童文学の世界、そして大人になってから出会った東洋思想の一つである「禅」の考え方に影響を受けている。

「すべての物質には実体がなく、流動的な状態のほんの一時の姿であり、常に変化していく」私はその考えから逃れることができない。「それ」はいつから「それ」でありいつまで「それ」であり続けるのか？この思考を主軸に作品を制作している。

■主な受賞歴

CP+ 御苗場 2018横浜 ゲッティイメージズノミネート

写真新世紀 2019佳作

ソニーワールドフォトグラフィーアワード 2020 プロフェッショナル部門

「クリエイティブ」ショートリスト

REMINDERS PHOTOGRAPHY STRONGHOLD COVID-19

パンデミック企画ファイナリスト

レンズカルチャー JOURNEYS 2020 JURORS' PICKS

■ 最近の展示

- 2018.12 安達口ベルト写真講座受講生写真展
「KONTRAPUNKT」
- 2019.02 CP+ 御苗場 2019 横浜
- 2019.06 Abox Photo Academy 写真展 2019
- 2019.10-11 写真新世紀 2019 展
- 2020.06 ソニーワールドフォトグラフィーアワード 2020 受賞者展
- 2020.10 REMINDERS PHOTOGRAPHY STRONGHOLD
COVID-19 パンデミック企画展公募ファイナリスト展
- 2020.11 Abox Photo Club Toyama 2020 写真展 VOL.4

作品介绍Webサイト

<https://www.maturi-co.maturyu.com/>



空を仰ぎ、彼らを見送る

2020年、春の彼岸にひとりで父の墓参をした。それは東京オリンピック延期というニュースの4日前だった。帰り道に空を見上げ、今日もこの空のもと、COVID-19によって何人の命が奪われるのかと考えた。

治療法や治療薬がなく、近い人にそばにいてもらえることもなく死んでくというのは、どんなにか心細く、悲しく、悔しいことだろう。

私は彼らと何の面識もないが、まったく知らないひとりの人間がせめて心を寄せたということを伝えたい。彼らのために祈りたいと思った。

「風邪と同じ。治る。」という人は多くいる。しかし、そうではない人もいるということを認識しなくてはならない。

全世界での1日の死者数、自殺者数、他の病気による死者数と比較して、「大した数じゃない」という人も多くいる。

数字で見ると数字でしかない。しかし、ひとつひとつの命に名前があり、家族があり、生活があったことを想像しなくてはならない。

旅行会社に勤める私は、出勤が停止された。そのため毎日コンパクトカメラだけを持って近所を散歩し、空を見上げて撮影をした。今日、COVID-19によって空へ、宇宙へ還っていく命を思いながら。帰宅後、撮影した空の写真を印刷し、その空に命をひとつひとつ、写経をするように描いた。

ritsuko matsushita

■ 作品左から

20200331-4398 / 20200429-9951 / 20200528-4817 / 20200608-3644 / 20200702-5033